



2021年 12月3日 金曜日
(令和3年)

知・技の創造

ものづくり大学発

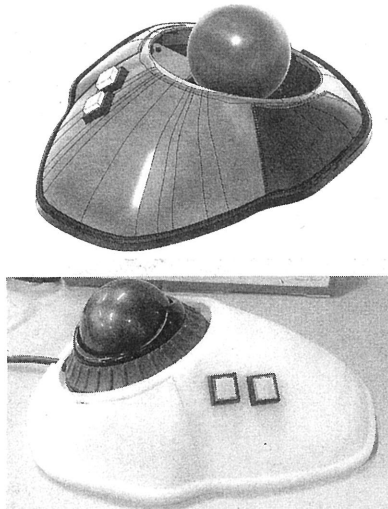
▷73◁

ポタンの構造が好ましいこと。また、クリックボタン部と。キーボードで文字入力時の機構を工夫してどの角度かに特定のキー(特にCtrl、Altなど)を押しながらまた、そのCtrl・Altに割り当てたボタンをマウス筐体(きょうたい)に新

今後、マウス操作に関わる部品をブロック化したり、筐体デザインを複数用意し3Dプリンターで自由に出力したりして、さまざまな症状のユーザーがマウスのデザイン

不自由の方向けのコンピューターキーボードにも開発の対象を広げていきます。

①3Dモデル(図1)
②実装したマウス(図2)



三井実 総合機械学科教授

脳性まひユーザー用マウス

脳性まひをはじめとする肢不自由や運動障害の方々の症状にはそれぞれ違いがあります。例を挙げると、ある方は半身を全く動かせなかったり、またある方は身体全体を動かす力が十分に入らなかったりなどといった症状です。

まず、右半身不随の被験者は半身を全く動かせなかったり、またある方は身体全体を動かす力が十分に入らなかったりなどといった症状です。

また、右半身不随の被験者は半身を全く動かせなかったり、またある方は身体全体を動かす力が十分に入らなかったりなどといった症状です。

次にこれらの開発検討項目への対策を実装しました。市販トラックボール型マウスを参考にした3DCAD(図1)に、よりモデル化し、ボディーの高さ寸法を低くして3Dプリンターで作成(図2)しました。



を自由に組み合わせられる機能を実現します。さらに肢体

みつい・みのる 博士(情報科学)。能開大卒。北陸先端大・博士後期課程修了。北陸先端大電子連携研究員などを経て現職。専門は音響工学、電気電子工学、感性工学など。